ライオン通信
<URL>http://www.kooge.jp/
Vol. 235　2023 年 7 月 10 日発行
郡家コンクリート工業株式会社
〒680-0433 鳥取県八頭郡八頭町山上 363-17
TEL(0858)73-0500　FAX(0858)73-0535

日々進化⑮

私が敬愛する第一コンサルタンツの右城猛（うしろたけし）社長は、ホームページ『右城猛の日々進化』の中で「若手技術者に伝えたいこと」として仕事の流儀を書いていらっしゃいます。新入社員だけでなく、中堅、ベテランの方にも大いに参考になること請け合いです。ぜひお役に立てて下さい。
（２０２０年に上梓された『夢を追い求めて〈土木技術者編〉』でもご覧いただけます。）

被害事例のデータベース化を

近年、土木事業においても技術の高度化と分業化が急速に進んでいる。その結果、個々の専門に関してはわかっていても、全体最適かどうかを判断することが難しくなってきた。

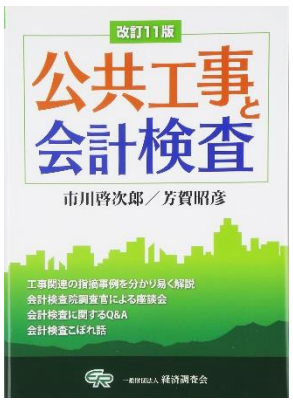
例えば、南海地震による堤防被害の予測に有限要素法を使用すれば、堤防がどのように変形し、いくら沈下するのかを解析的に求めることができる。同様に、地盤のどの範囲を改良すれば、沈下量をいくらに低減させられるかについても計算が可能である。

しかし、解析結果の信頼性を判断するのは難しい。担当した技術者が有限要素法のソフトを使う能力に優れていたとしても、地震波形や土質特性、解析の際のモデル化などといった入力条件を決めるための専門的知識を持っているとは限らないからである。

結局、最終的な判断は、経験に頼るしかないということになる。解析結果を鵜呑みにするのではなく、過去の被害事例などと突き合わせて総合的に判断する必要がある。

その意味からも今後は、国土交通省などが中心となって、自然災害による被害事例をデータベース化し、誰もがこうしたデータを閲覧できるようにすることが望まれる。
（高知建通新聞「明日へ・四国視点」２００７年７月２５日）

（８月号に続く）



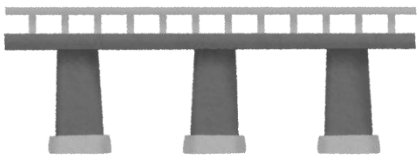
会 計 検 査

『公共工事と会計検査』の改訂 11 版より「会計検査こぼれ話」をご紹介します。
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の**市川　啓次郎(いちかわ　けいじろう)氏**は昭和19年生まれ。
元会計検査院　国土交通総括検査室長を務められていました。
芳賀　昭彦(はが　あきひこ)氏は昭和30年生まれ。
現在、一般財団法人経済調査会技術顧問としてご活躍中です。

会計検査こぼれ話：　ＫＢＭ

「ＫＢＭ」をご存じだろうか。この本を手にとっている方々であれば、ご存じの方も多いだろう。仮ベンチマークの略であり、特定の工事や測量を行うため、仮に設置する水準点のことだ。



先般、某県の林道工事で、橋の橋台が、設計より約５０センチ高く造られていたことがわかったと新聞報道があった。橋りょう部分を施工するため、業者が、既に施工が完了した橋台部分の測量を行ったところ判明したらしい。新聞記事では、「機器の数値を見誤り、間違ったデータを基に工事が行われたことが原因」とだけ報じられていたが、これを「ベンチマーク、間違えちゃったんだな」とすぐに気づいた方は、それなりに工事に携わった経験のある方だろう。工事検査のベテラン調査官曰く、「完成した構造物に、ひび割れ、傾き、倒壊等、何かしらの現象が出てれば別だが、何もなければ…。今は実地検査でＫＢＭの確認から始めているのだろうか」

ＫＭＢの言葉すらわからなかった私だが、その言葉を聞いた時、ふと、「本院の工事検査の技術は後生に引き継がれているのだろうか」という疑問が頭をよぎった。担当する省庁が変わっても工事内容に大きな違いはない。経験すればするほど、知識は蓄積され、検査技術は高くなる。若い頃は、経験や知識の蓄積はないが、ベテラン調査官と行動を共にすることで、自分が経験したことのない事態を聞いたり、疑問を相談したりして、疑似体験することが可能だった。では、今はどうか。検査効率を向上させるなどの理由から若手が単独で行動せざるを得ず、出張中に確認しなければならない点を見落としたまま帰京してはいないか。あるいは逆に、出張官全員で行動することが多くなったため、若手が率先して発言できなくなってはいないか。検査技術を高めるための近道はない。地道に経験を積み、知識を得るしかないのだから。

ベンチマークのもう一つの意味は、「ものごとの基準となるもの」。自らの中に検査のベンチマークを持ち、いつ、どのような事態に対してもぶれずに、それでいて柔軟に対応できる検査を行いたいものだ。（Ｓ子）

レオちゃんの製品紹介コーナー

◇◇ 自立型ブロック　レベロック ◇◇

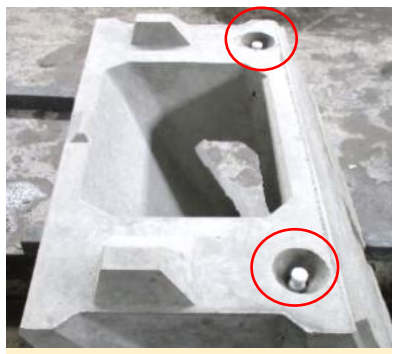
こんにちは！ ライオン通信のレオちゃんです！

今月は、自立型ブロック『レベロック（水平積大型ブロック）』をご紹介します！
レベロックは、河川護岸・道路・造成など様々な場所に使用できます。また、間知ブロックに比べ多くのメリットがあり、現場打ちに比べ施工スピードが早く工期短縮になる製品ですので、災害復旧工事にも役立ちます。

今回は、レベロックの特長と積みブロックとの比較、施工方法をご紹介します♪
是非ご検討ください＾＾☆

特　長

優れた構造安定性！
ブロック練り積み擁壁としての壁体重量、一体性、コンクリート強度等は標準設計と同等以上となっているので、一般的な積ブロック(間知ブロック)と同様の使用が可能です。
構造は、製品同士が凹凸でかみ合う事により、他のブロックよりさらに安定性が増します。



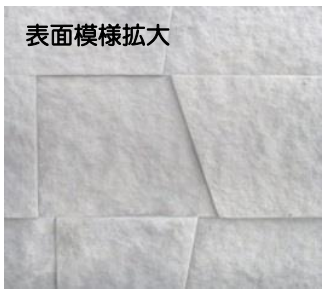
天端部分には、吊り用アンカーが２個ついているので、水平設置も楽にできます。

施工が簡単、安全、早い！
ブロック自体に勾配がついており、水平に設置するだけなので、熟練工でなくても簡単･安全に短期間で施工が可能です。

優れた経済性！
製品のサイズが１平方メートル/個と大型なため、重機施工となり、積みスピードが大幅にアップします。

あらゆる環境にマッチ！
ブロック表面の模様は、自然景観にもよくなじむ石模様です。

基礎コンクリートの代わりに基礎ブロックを使用することで現場打ちが不要になり、工期短縮につながります。

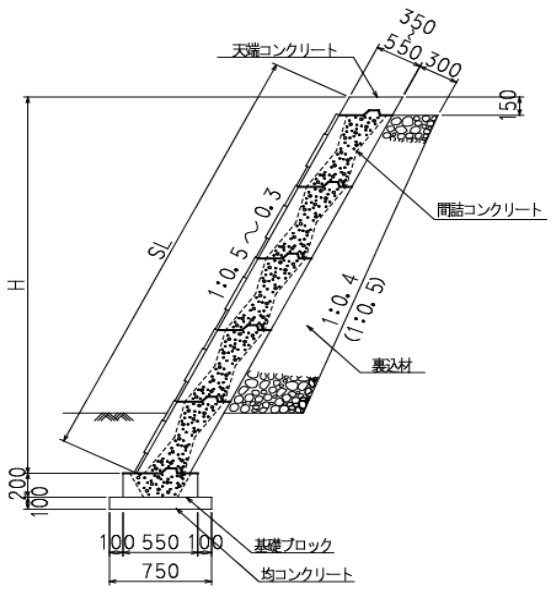
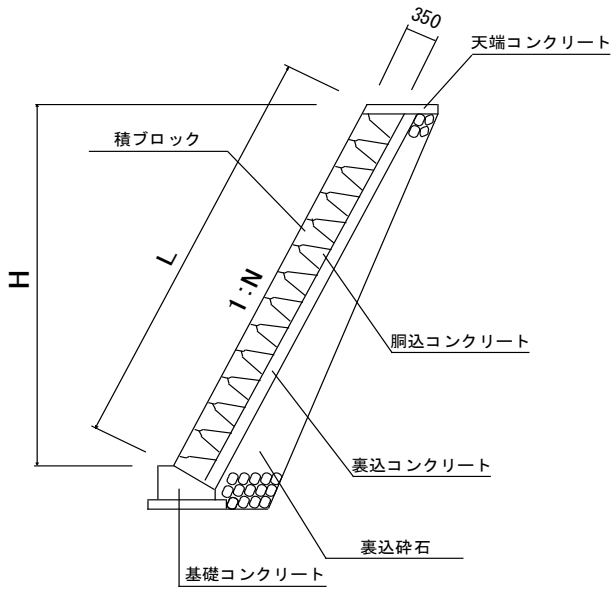


通常の積ブロックより施工が早くなりますので、お客様よりご好評いただいています！

【レベロック 歩掛かり表】　　（10m² あたり）

材　料	規　格	数　量	単　位
レベロック	35 型	10	個
一般世話役		0.10	人
ブロック工		0.30	人
特殊作業員		0.10	人
普通作業員		0.30	人
ラフテレーンクレーン	25t 吊	0.20	日
胴込コンクリート		1.78	m³
諸経費		4	%

護岸ブロック(間知ブロック)との比較

	レベロック	間知ブロック
参考断面図		
施工性	積み上げと中詰め材の投入、間詰コンクリートの打設の繰り返し作業のみで熟練工等の作業が不要となり、容易に施工が可能。	ブロック工等の専門施工が必要で手間がかかり、プレキャスト製品に比べて施工性が劣る。
安全性	重機での施工のため、早さ・安全性が良い。	人力での施工のため、早さ・安全性が劣る。
評　価	◎	△

施工方法

均しコンクリートを設置後、所定の位置に基礎ブロックを敷設、間詰めコンクリート打設
（基礎ブロックの場合）

据付け
※**製品同士がかみ合うように据付け**

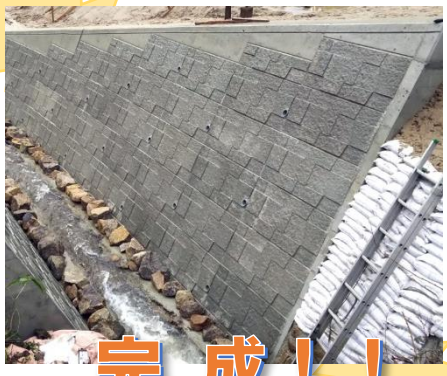
１段目据付け完了

ブロックの裏側を埋戻し

間詰めコンクリートをブロックの半分程度の高さまで打設
②～⑤までを繰り返します

所定の段数まで施工完了後、間詰めコンクリートを天端まで打設

天端コンクリートの打設



完　成！！

★☆夏季休業のお知らせ☆★

弊社の夏期休業は **8月11日（金）～8月16日（水）** とさせて頂きます。

※８月１７日(木)より平常営業致します。

<URL>http://www.kooge.jp/　　<e-mail>info@kooge.jp